



# 令和4年度野生動物管理教育プログラム

科目名 (項目数)	学修項目	講師(案)	主な学修内容
野生動物保全 管理学 (7)	(1) 野生動物管理とは何か	梶(農工大)	哺乳類相の特徴、野生動物管理の在り方
	(2) ヨーロッパと北米の野生動物管理	梶(農工大)	野生動物管理の歴史、ヨーロッパと北米の野生動物管理システム
	(3) 個体群動態の基礎	宇野(農工大)	個体群生態学の用語、理論
	(4) 野生動物の過増加	宇野(農工大)	過増加をもたらす様々な影響
	(5) 大型獣の個体群管理	鈴木(岐阜大)	大型獣の生態的特性と管理手法
	(6) モニタリング	高木(兵庫県立大)	個体群モニタリングの基礎
	(7) 生息地	栗山(兵庫県立大)	生息地の概念、生息地利用
野生動物被害 管理学 (7)	(1) 野生動物管理のなかの被害管理の位置づけとは	小寺(宇都宮大)	人口縮小社会の野生動物被害、被害管理に関わる社会教育
	(2) 農業被害の背景・要因・実態	小寺(宇都宮大)	農業被害の増加の背景と要因、農村の諸問題
	(3) 農業被害の軽減手法	小寺(宇都宮大)	農業被害軽減手法と技術
	(4) 森林生態系被害、林業被害の背景・要因・実態	小池(農工大)	森林生態系被害、林業被害の背景と要因
	(5) 森林生態系被害、林業被害の軽減手法	小池(農工大)	林業被害軽減手法と技術
	(6) 水産業被害の背景・要因・実態	須藤(イェール大)	鳥類や鰻脚類による水産業被害の背景と要因、漁業の諸問題
	(7) 水産業被害の軽減の手法	須藤(イェール大)	水産業被害軽減手法と技術
自然保護と 自然資源管理 (6)	(1) 自然保護とは何か	土屋(東京農工大)	保存と保全、日本と欧米の自然保護思想の違い
	(2) 自然資源管理とは何か	土屋(東京農工大)	自然資源、エコシステムマネージメント
	(3) 自然資源管理のガバナンス	土屋(東京農工大)	ガバナンス、補完原則、市民参加
	(4) 野生動物の資源的価値	鈴木(岐阜大)	野生動物の資源的価値、利用形態
	(5) 野生動物の消費的活用	伊吾田(酪農大)	狩猟資源、食肉資源、副産物等
	(6) 野生動物の非消費的活用	中川 (知床自然大学院大学)	観光資源、教育資源等
鳥獣・環境関連 法規・政策 (7)	(1) 鳥獣保護管理法	鳥居(自然公園財団)	鳥獣保護管理法概要、特定計画制度
	(2) 自然環境保全関連法令の概要	鳥居(自然公園財団)	生物多様性保全基本法、自然環境保全関連個別法
	(3) 森林関連法規、森林・林業基本法	増田(林野庁)	森林・林業基本法、森林法、森林計画・山地保全
	(4) 特定計画に基づく科学的管理手法	横山(兵庫県立大)	科学的管理、データ収集・分析の理論と手法
	(5) 野生動物問題に関する法体系	黒崎 (東京環境工科専門学校)	鳥獣被害防止特措法と鳥獣保護管理法
	(6) 行政の構造、公的機関の役割	黒崎 (東京環境工科専門学校)	都道府県と市町村、公務員の理想像やモデル事例
	(7) 農林業被害対策に関する計画立案	黒崎 (東京環境工科専門学校)	被害防止計画の立案
住民参加型 計画立案手法 (3)	(1) 地域主体の獣害対策の理論	山端(兵庫県立大)	被害管理、合意形成、アクションリサーチ
	(2) 地域主体の獣害対策推進手法	山端(兵庫県立大)	アンケート・インタビュー、フィールド調査、可視化(GIS)、ワークショップ技法
	(3) 農業におけるコミュニティの特徴と土地利用計画、「人・農地プラン」	山端(兵庫県立大)	農業集落、コミュニティ組織、農村社会の課題
住民参加型 計画立案演習 (3)	(1) 被害発生集落での実踏調査方法	山端(兵庫県立大)	演習、インタビュー、フィールド調査、可視化(GIS) 演習
	(2) ワークショップと合意形成の技法	山端(兵庫県立大)	演習、ファシリテーション技術
	(3) 地域主体の獣害対策推進手法	山端(兵庫県立大)	演習、広報

**オンデマンド講義** (5科目/30学修項目) 1学修項目 約90分

**現地実務講習\*** (1科目/3学修項目) 1日目現地調査、2日目グループワークを予定。

※定員制の為、応募者多数の場合は抽選を行います。

- 上記プログラムは、令和5年度以降のコアカリキュラム本格的実施のための、試行的プログラムとなります。
- 将来的な制度構築に資するため、受講後にアンケート調査を実施しますので、ご協力をお願いいたします。